

## 「いまさら、『都市デザイン』……。」

講師：山田脩二（フリーカメラマン・淡路瓦師）

司会：八木康行（ 스튜디오 エイト アーキテクト） 記録：宮川武（都市問題経営研究所）

最近、暇で暇で、しょうがないなあと思っていたら、JIA のまちづくりセミナーで、何か？！しゃべらないかと、話をもちかけられ、今日の日を楽しみにされていた山田さんです。

今日のお話は、賢い人は、馬鹿になり、馬鹿な人は、更に馬鹿になるという内容らしく、内容があるような、ないよう（内容）な、さて？

山田さんの話の中には、よく馬鹿が出て来るようですが、大学で話をされたとき、「馬鹿、おれの話はメモるな」といったら、馬鹿というのがあんまり多いので、馬鹿というのを「正」という字を書いて、数を数えていたということらしく、馬鹿もたくさん言えば正しくなるとか……。（笑）

都市デザインは、歳（都市）をとってしまったとか？（笑）全国津々浦々、都市という都市は、ホントに歳を取ってしまったということです。年増の都市だということで（笑）山田さんは60歳で、体力と気力と、ほんの少々のがあれば、瓦を焼いて、写真を焼いて、炭を焼いて、スミからスミまで、灰になって、死んでいくと考えておられたらしく、70歳のことを考えていなかったもので、少し焦ってるとのこと。

1960年代の終わりごろ、都市論が流行っていて、写真とデザイン関係の周辺をうろついておられた山田さんは、雑誌で、都市の風景写真を撮ってほしいと言われ、都市のスカイラインを撮っていたとのこと。山田さんのスカイラインは、いつも、地平線、水平線の曲がった写真で、なんで曲がっているのかと問われたとか。

1966年に霞ヶ関ビルが出来て、いろんな方向から撮っていて、その頃、スカイラインを撮った写真をあちこちで、頼まれ、それに併せて、都市論を勉強したとのことですが、今はさっぱり忘れてしまったとか。

70歳近くになって、丸くなってきたが、相変わらず言いたい放題で、前に山田さんと呼んだところの担当者は、左遷されたらしい。（笑・依頼者、司会、記録は大丈夫か???)

どうも、都市は、最近、人間から離れて行って、感情がなく、上に伸びてるだけで、機能が延びていないと感じておられる。

といっても、都市が好きそうなので、18歳からずっとあちこち行って、今は淡路にいるが、今でもあちこち行き、いろんな町を彷徨うが、いつも最後は県庁所在地のあるような大きな都市に興味があり行

くらしい。そして、一番高いところに上がって、町を見渡し、夕暮れ時は、飲み屋へと歩を進めるとのことです。

今日も高いところから撮った写真が多いが、人に高いところからとって酔っ払ってると言われるが、これは、どうしようもないとか。

今日は、都市に悪態ついて、都市だから、工業製品だから、味がない、情感がない、じゃなくて、素材感とか、名誉なものがあって、必要じゃないかと言って、くたばっていく（終わっていく）とのこと。

それでは、「山田脩二の新日本百景」撮影 1983年から 2005年の都市、風景……スライドからの語りです。

富士山……飛行機から、新幹線から、新宿から  
高層建築、都庁の上から……瓦がない  
ボケた建築……上を切った  
六本木ヒルズ……屋根に瓦を置け  
東京タワーから千葉を見る……雲がいい  
東京タワーから……菊正宗を撮る  
曇った新宿……都市景観には瓦が似合う  
新宿上から……1千万人居ればこんな状態  
都庁・新宿……屋上に敷き瓦を  
紀見峠……大阪～和歌山、自然と共に暮らす団地  
幕張のビル……朝日を背に  
芦屋浜シーサイドタウン……学生の模型みたい  
コスモスのお台場……きれいで好き、雲がいい  
生駒山……新阪急ビルから  
大阪城……かわいそう  
道成寺……瓦屋根、綺麗過ぎる  
法隆寺・夢殿……光と影、鬼瓦  
淡路瓦小屋……何気ない瓦にいいものがあるこれ  
が日本の景観、都市も同じ  
瓦の迫力……瓦文化で都市計画が出来ないか  
薨……日本の景観、高層はその延長  
小布施……これは良い  
熊野……茶畑、色の神経  
佐賀……メロン、イチゴ、バス停

以後、写真 160 枚と語りが続きます。

山田さんの写真の力は、実物をご覧ください。  
（以上、山田さんの語りの雰囲気や伝えられたらと思う記録です。生の山田さんの語りを何処かでお聞き下さい。山田さんとその写真の力が伝わります。）